

Barcode.Office

マニュアル

第 11 版
2022 年 5 月

Pao@Office

Copyright©2022 Pao@Office
All rights reserved.

本書は、有限会社パオ・アット・オフィスが開発したソフトウェア「Barcode.Office」についての説明を行うものです。

利用者は本書のいかなる部分も、発行者の許可なく、複製を行ってはいけません。

有限会社パオ・アット・オフィスは、本書の内容に起因する一切の結果に関して、いかなる責任も負いません。

有限会社パオ・アット・オフィスは、本書の内容、または Barcode.Office の仕様を予告なく改訂、あるいは、内容変更する権利を有します。また、それらの行為を行った場合においても、利用者への通知の義務を負いません。

有限会社パオ・アット・オフィスは、Barcode.Office の仕様に起因する結果にたいして、いかなる責任も負いません。

マニュアル中での画像は、説明のため見やすく編集している箇所があります。利用者の皆様の画面とは一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

本マニュアルの中で記載されている製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

有限会社パオ・アット・オフィス

郵便番号 275-0026

千葉県習志野市谷津 3-29-2-401

<http://www.pao.ac/>

目次

はじめに	1
動作条件	2
使用制限	3
対応しているバーコードの種類.....	4
GS1 128 (UCC/EAN128) / GS1 DataMatrix / GS1 Databar のコード入力方法.....	5
一次元バーコードの種類	6
二次元バーコードの種類	8
GS1 Databar (RSS) の種類.....	9
バーコード作成手順の例 - Excel2010 / 2013 / 2016 / 2019 / Office 365.....	10
バーコード作成手順の例 - Excel2007	17
バーコード作成手順の例 - Excel2003	23
Excel VBA マクロのコーディング例 - 貼り付けたコントロールから	28
Excel VBA マクロのコーディング例 - COM オブジェクト生成から	29
バーコード(ActiveX)コントロールのプロパティ	31
COM コンポーネント API	36
バーコード入力値について	41
試用版・製品版について	43
使用許諾	44
代金支払い方法(ユーザ登録の方法).....	45
変更履歴	47

はじめに

Barcode.Office は、Excel や Word などの Office 製品でバーコードを作成するツールです。

Barcode.Office は、次のことを念頭において開発いたしました。

1. 精密なこと

単なるバーコードリーダでの検査でなく、RJS のレーザーインスペクター Model L2000 というバーコード検査機にて細かくバーコードの精度を検査しております。それにより、従来の他社のバーコード作成ツールに比べても精密なバーコードを作成することが可能です。

2. 使いやすいこと(バーコードが簡単に作成できる)

Excel や Word に Barcode.Office の ActiveX コントロールを貼り付けるだけで簡単にバーコードを作成できます。セルの内容をバーコード出力することもできます。

また、Excel マクロプログラム(VBA)のみ数ステップでバーコードを一から生成することができます。

3. 軽いこと

何と言っても軽さが命です。Barcode.Office を利用してバーコード作成を行う場合、Barcode.Office 自体がシステムに与える負荷は微小です。ほんの数MBのメモリ上で動作します。

4. 汎用性があること

Barcode.Office は、ActiveX コントロール(COM コンポーネント)です。

Office 製品に限らず、ブラウザ等多くのアプリケーションからバーコードを作成することが可能です。

2010 年 11 月 作者

動作条件

本製品を使用するためには、以下の条件を満たす環境のパソコンが必要です。

OS	Windows 2000 / Xp / Vista / 7 / 8 / 8.1 / 10 / 11 Windows Server 2003 / 2008 / 2012 / 2016 / 2019 / 2022
Microsoft Office	2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / Office 365

注) 2022年5月リリースにより、Office 64bit版 / Office 32bit版 両方に対応しました。

それ以前の旧版 Barcode.Office は、Office 64bit版に対応していません。

旧版 Barcode.Office は、Office 32bit版にのみ対応しております。

旧版 Barcode.Office と Barcode.Office は、別製品となります。互換性はございません。

Barcode.Office は、これまで、Office 32bit版でのみ動作し、Excel 64bit版等、Office 64bit版では動作しませんでした。

2022年5月のリリースにより、Barcode.Office は、Excel 64bit版/32bit版等、Office 64bit版/32bit版両方で動作するようになりました。

具体的には、これまでのバーコードのコントロールは、32bit版のActiveXコントロールでした。

32bit版のActiveXコントロールは、Office 64bit版では動作しません。

2022年5月のリリースでは、64bit版/32bit版、それぞれのActiveXバーコードコントロールを1から開発し直しました。

従って、「Barcode.Office」と「旧32bit版のみBarcode.Office」とのバーコードコントロールの互換はございません。

「Barcode.Office」をインストールしたパソコンで旧版のバーコードが貼り付けてあるExcelファイルを開いても、そのバーコードをそのままお使いいただくことはできないということになります。

「64bit/32bit対応版の新Barcode.Office」とそれ以前の「32bit版のみ対応の旧Barcode.Office」とは、別製品となります。

ただし、「32bitのみ対応の旧Barcode.Office」の開発・販売・保守は、今後も続きます。少なくとも1年間は継続させていただきます。(2022年5月現在)

また「32bitのみ対応の旧Barcode.Office」と「64bit/32bit対応 新Barcode.Office」は、ユーザーインターフェース、機能とも同様となるように開発させていただきました。

注文サイトでは、「Barcode.Office」と「旧Barcode.Office」どちらもご購入可能になっております。

使用制限

~~— Excel で表示倍率を変更して保存した場合、バーコードのサイズが変わってしまいます。表示倍率の変更は行わないでください。~~

→2022年5月リリースの Barcode.Office より、この制限はなくなりました。

旧版 Barcode.Office では、この制限がございます。

- Access で、バーコードコントロールのコピー&ペーストはできません。

対応しているバーコードの種類

Barcode.Office は、以下のバーコードを作成することができます。

- (1) JAN-13(EAN-13)
- (2) JAN-8(EAN-8)
- (3) UPC-A
- (4) UPC-E
- (5) ITF(インターリーブド 2 of 5)
- (6) Matrix 2 of 5
- (7) NEC 2 of 5 (Coop 2 of 5)
- (8) NW-7(CODA-BAR)
- (9) CODE39
- (10) CODE93
- (11) CODE128
- (12) GS1-128 (UCC/EAN-128)
 - コンビニ向け標準料金代理収納用バーコード
 - 医療用 医薬品等のバーコード
 - 医療用 医療材料等のバーコード
 - 食肉標準物流バーコード「基本バーコード」
- (13) 郵便カスタマバーコード
- (14) GS1 Databar 標準型 (RSS-14) ... **ver 2.0** において追加
- (15) GS1 Databar 限定型 (RSS Limited) ... **ver 2.0** において追加
- (16) GS1 Databar 拡張型 (RSS Expanded) ... **ver 3.0** において追加
- (17) QR コード
- (18) 標準料金代理収納用バーコード(コンビニバーコード)
- (19) DataMatrix (GS1 DataMatrix)
- (20) PDF417

GS1 128 (UCC/EAN128) / GS1 DataMatrix / GS1 Databar のコード入力方法

少し特殊な GS1 128(UCC/EAN128) / GS1 DataMatrix/ GS1 Databar において、AI(アプリケーション識別子)を挿入する必要があります。

GS1 128 の場合、AI(アプリケーション識別子)の挿入方法は 2 通りございます。

(1) 可変長項目(データブロック)の後の AI には、FNC1 を挿入

⇒これまで通り"{FNC1}"を付ける。例: "{FNC1}21"のようにコードを指定

(2) 固定長項目(データブロック)の後の AI には、固定長のため目印の FNC1 は不要

⇒新しく追加した"{AI}"を付ける。例: "{AI}21" のようにコードを指定

"{AI}"を指定して FNC1 を挿入しない場合も、カッコ0付コード文字は出力されます。例えば入力コードに"{AI}21"を指定した場合、添え字には(21)と出力されます。

例) (01)04512345670016(21)1 ⇒(01)の前には FNC1 を挿入し(21)の前には挿入しない。

コード指定方法 → ” {FNC1}0104512345670016{AI}211”

GS1 DataMatrix は、添え字がないため、FNC1 を挿入する個所に”{FNC1}”を入力していただくだけで結構です。”{AI}”は使用しないでください。

GS1 Databar は、{FNC1}は、全体のコード体系から自動挿入しますので、試用することはありません。任意の AI のみ入力す機会がございます。 (“{AI}”)

一次元バーコードの種類

次の種類のバーコードを出力できます。

<p>1. JAN-13(EAN-13)</p> <p>数字 13 桁。12 桁指定時、13 桁目のチェックディジットを自動計算付与。</p> 	<p>2. JAN-8(EAN-8)</p> <p>数字 8 桁。7 桁指定時、8 桁目のチェックディジットを自動計算付与。</p> 
<p>3. UPC-A</p> <p>数字 12 桁。11 桁指定時、12 桁目のチェックディジットを自動計算付与。</p> 	<p>4. UPC-E</p> <p>数字 7 桁。6 桁指定時、7 桁目のチェックディジットを自動計算付与。</p> 
<p>5. ITF(インターリーブド 2 of 5)</p> <p>使用可能文字：数字</p> 	<p>6. Matrix 2 of 5</p> <p>使用可能文字：数字</p> 
<p>7. NEC 2 of 5 (Coop 2 of 5)</p> <p>使用可能文字：数字</p> 	<p>8. NW-7(CODA-BAR)</p> <p>使用可能文字： ABCD.+:/\$-0123456789</p>  <p>1 文字目 ABC いずれか入力した文字がスタート・ストップキャラクタとなる。入力がない場合 C が既定値。</p> <p>パラメータ： スタート・ストップキャラクタ表示/非表示</p>

9. CODE39	10. CODE93
<p>使用可能文字： 1234567890ABCDEFGHIJKLMNQRSTUUVWXYZ-. *\$/%</p>  <p>* 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 *</p> <p>パラメータ： スタート・ストップキャラクタ表示/非表示</p>	<p>使用可能文字： 1234567890ABCDEFGHIJKLMNQRSTUUVWXYZ-. *\$/%</p>  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 0</p>
11. CODE128	12. GS1-128 (UCC/EAN-128)
<p>多くの半角英数文字記号・エスケープシーケンスが使用可能。 CODE A/B/C により出力文字・パターンを切り替えることが可能。</p>  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 0</p> <p>パラメータ： どのコードパターンを使用するか。 AUTO / CODE_A / CODE_B / CODE_C 既定値は、AUTO。AUTO は、数時 4 文字続けば CODE A にコードチェンジするなど、バーコードが一番小さくなるように自動調整する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - コンビニ向け標準料金代理収納用バーコード - 医療用 医薬品等のバーコード - 医療用 医療材料等のバーコード - 食肉標準物流バーコード「基本バーコード」  <p>(01)04512345670016(21)1</p> <p>コンビニバーコード 入力： {FNC1}919123450000000000000004520875004013100295006</p>  <p>(91)912345-00000000000000045208750040131-0-029500-6</p>
13. 郵便カスタマバーコード	
<p>郵便番号+住所の英数字部分のみ入力 例：27500263-29-2-401</p>  <p>パラメータ：8~11.5 ポイント(大きさ)</p>	

二次元バーコードの種類

次の種類のバーコードを出力できます。

<h3>1. QR コード</h3> <p>パラメータ：(既定値はアンダーバー)</p> <ol style="list-style-type: none">(1) エラー訂正レベル：L / <u>M</u> / Q / H(2) 文字種：数字 / 大文字英数字 / <u>8ビットバイトデータ(漢字含む)</u>(3) バージョン：1~40 <u>5</u>(4) 全角文字エンコード：<u>“shift-jis”</u> / “utf8” /etc. 
<h3>2. DataMatrix (GS1 DataMatrix)</h3> <p>パラメータ：(既定値はアンダーバー)</p> <ol style="list-style-type: none">(1) シンボルコードサイズ：<u>自動</u> / 10x10~144x144 / 8x18~16x48 等(2) 全角文字エンコード：<u>“utf8”</u> / “shift-jis” / etc.. 
<h3>3. PDF417</h3> <p>パラメータ：(既定値はアンダーバー)</p> <ol style="list-style-type: none">(1) エラー訂正レベル自動決定：<u>する</u> / しない(2) エラー訂正レベル：1~8 <u>2</u>(3) アスペクト比：<u>0.5</u> / 1.0 / 2.0 等(4) 列・行数決定方法： <u>アスペクト比より自動決定</u> / 列数指定 / 行数指定 / 列数行数指定(5) 指定列数：1~30 <u>5</u>(6) 指定行数：3~90 <u>5</u>(7) 全角文字エンコード：<u>“shift-jis”</u> / “utf8” /etc.. 

GS1 Databar (RSS) の種類

次の種類のバーコードを出力できます。

1. GS1 データバー-Omni-directional / 表示桁数：数字 14 桁(GTIN)	
Omni-directional (標準型)  <p>(01) 14912345678901</p> <p>高さが狭い Truncated(カット型)という種類もごさいますが、この標準型の高さを調整して出力してください。</p>	Stacked (2層型)  <p>(01) 14912345678901</p>
Stacked Omni-directional (標準 2 層型)  <p>(01) 14912345678901</p>	
2. GS1 データバー-Limited / 表示桁数：数字 14 桁(GTIN)	
Limited (限定型)  <p>(01) 12345678901231</p>	
3. GS1 データバー-Expanded / 表示桁数：最大数字 74 桁または英字 41 文字	
Expanded(拡張一層型)  <p>(01) 00012345678905 (10) ABC123</p>	Stacked Expanded(拡張多層型)  <p>(01) 00012345678905 (10) ABC123</p>

バーコード作成手順の例 — Excel2010 / 2013 / 2016 / 2019 / Office 365

Excel 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / Office 365 を使ったバーコードの作成手順の例です。

操作手順については、動画もご用意してございます。

Excel 2019 / Office 365 : <https://youtu.be/aoRoN7bOfnE>

Excel 2016 : <https://youtu.be/Si4qcqzKlkY>

※Excel2010 と Excel2013 / 2016 / 2019/ Office 365 の操作は全般的に同じです。

画面の配色デザインが異なるだけです。

(1) 開発タブの表示

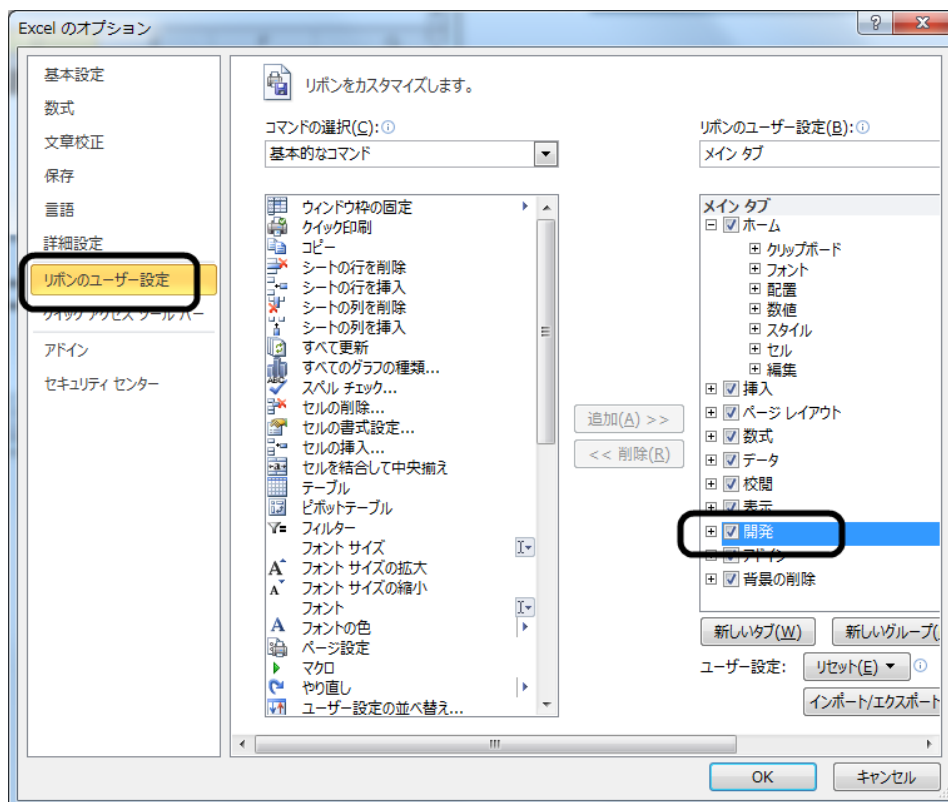
開発タブがない場合、挿入して表示します。

まず、「ファイル — オプション」を選択。

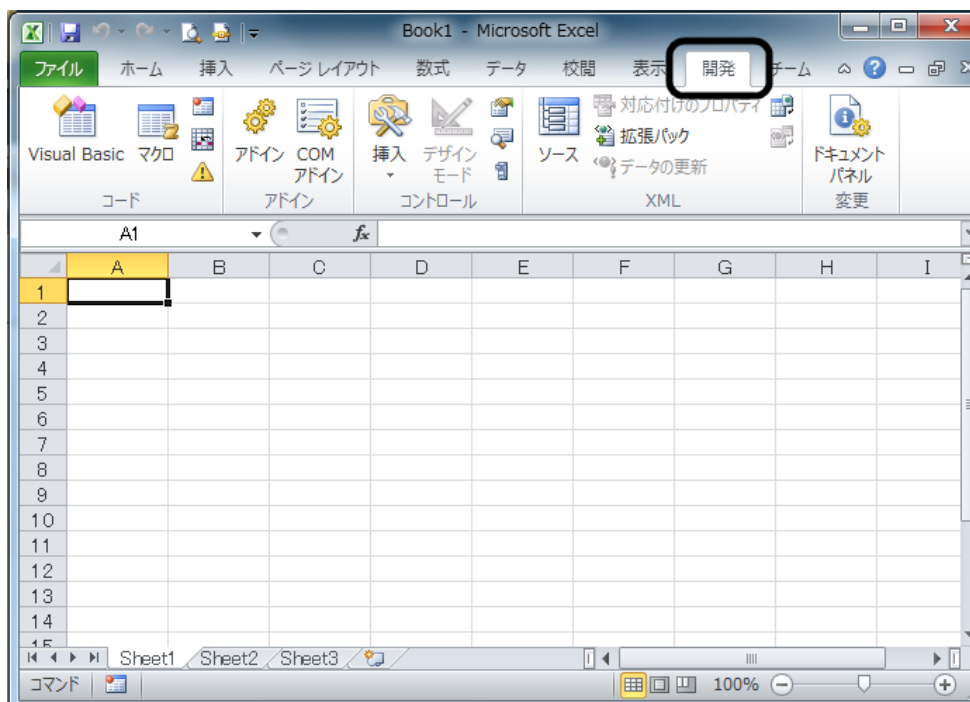


※以降は、Excel2010 のキャプチャを使って説明させていただきます。

「リボンのユーザー設定 - 開発」にチェックして、OK をクリック。

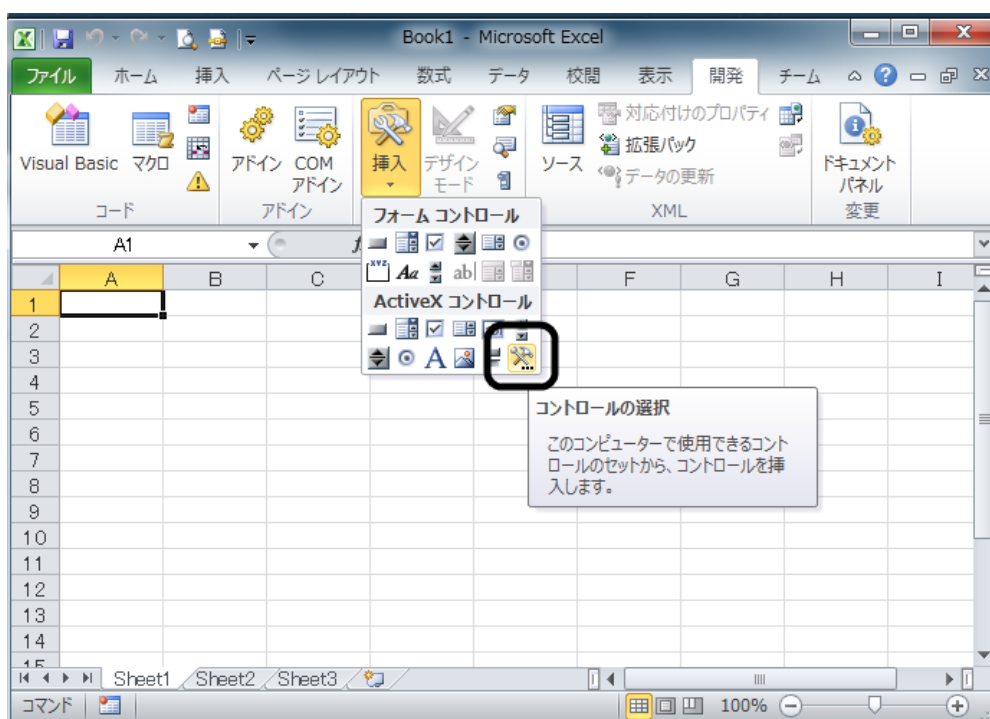


開発タブが表示されます。

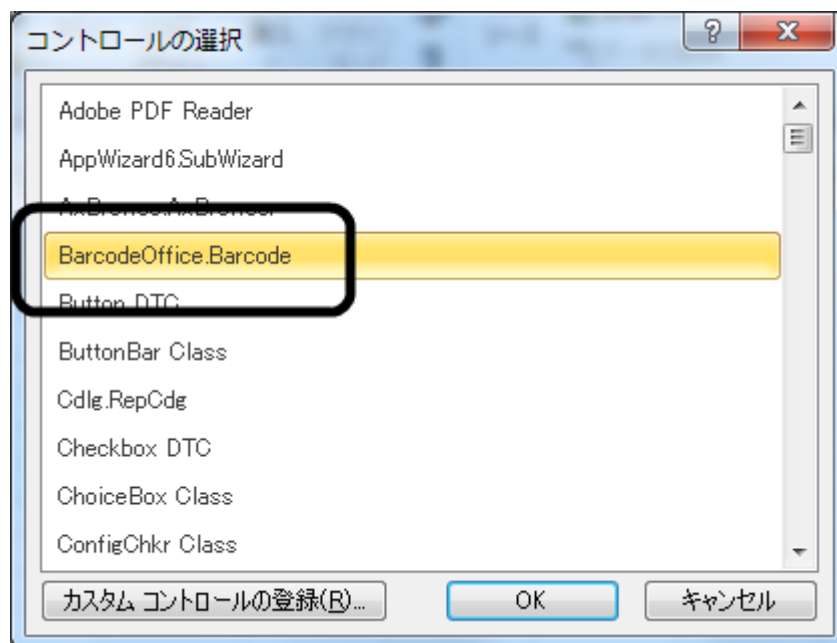


(2) バーコードコントロールの挿入

「開発タブ - 挿入 - ActiveX コントロール右下のボタン」をクリック



BarcodeOffice.Barcode を選択。



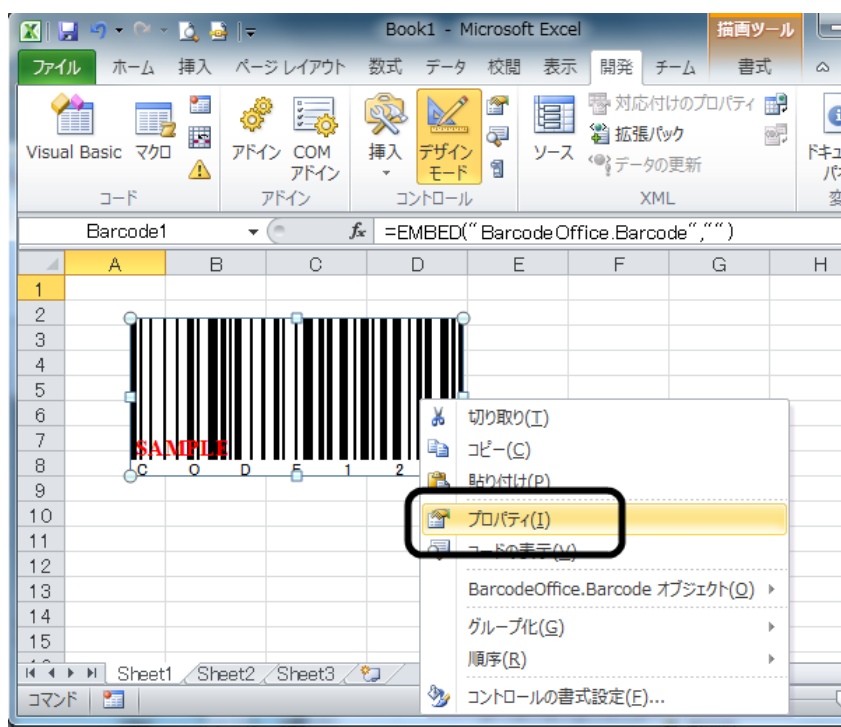
マウスのドラッグ操作でコントロールを貼り付け。



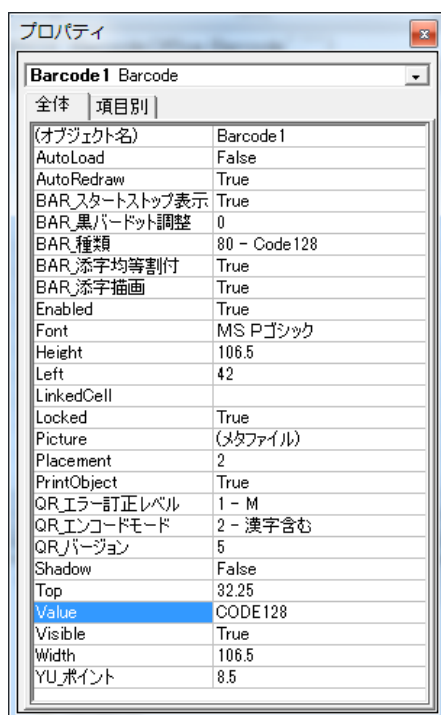
CODE128(デフォルト)のバーコードが作成されます。

(3) セルの値をバーコードに出力

右クリックプロパティ。



バーコードコントロールのプロパティウィンドウが表示されます。



LinckedCell プロパティに「A1」入力。

Font	MS Pゴシック
Height	106.5
Left	42
LinkedCell	A1
Locked	True
Picture	(メタファイル)
Placement	2
PrintObject	True

セル A1 に値を入力。

コード	アドイン	コントロール
A1		<input type="text" value="1234567890"/>

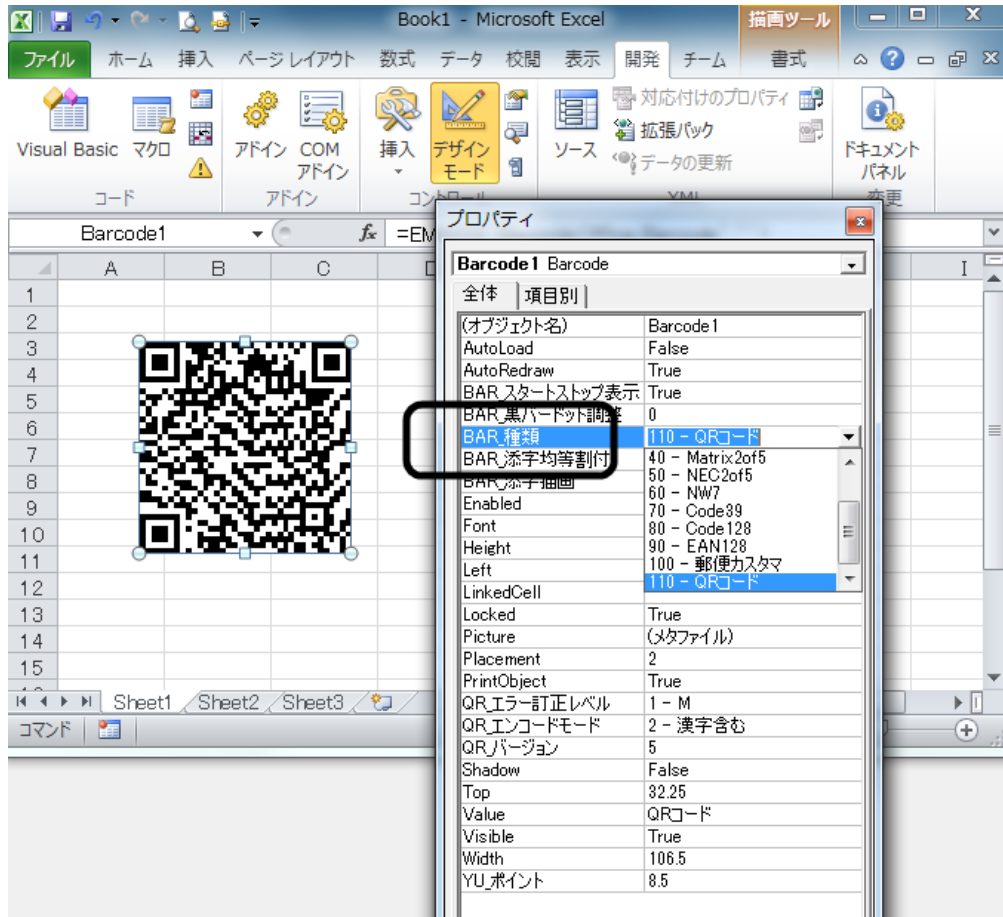
	A	B	C	D	E
1	1234567890				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					



バーコードにセルの値が出力されます。

(4) バーコードの種類変更

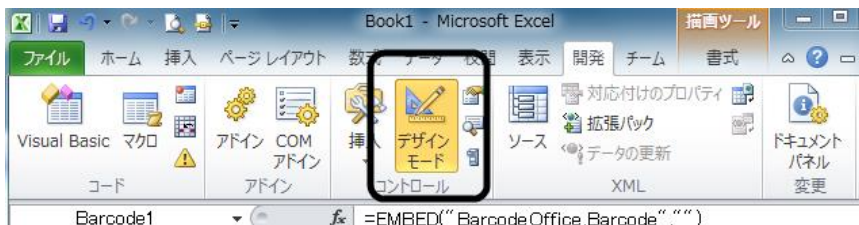
「BAR_種類」プロパティを CODE128 から QR コードに変更。



QR コードが表示されます。

(5) デザインモードを OFF

バーコードコントロールに対する設定が終わったらデザインモードを OFF にします。



通常は、デザインモードは OFF です。コントロールを選択する時、コントロールのプロパティを変更する時に、デザインモードを ON にしてください。

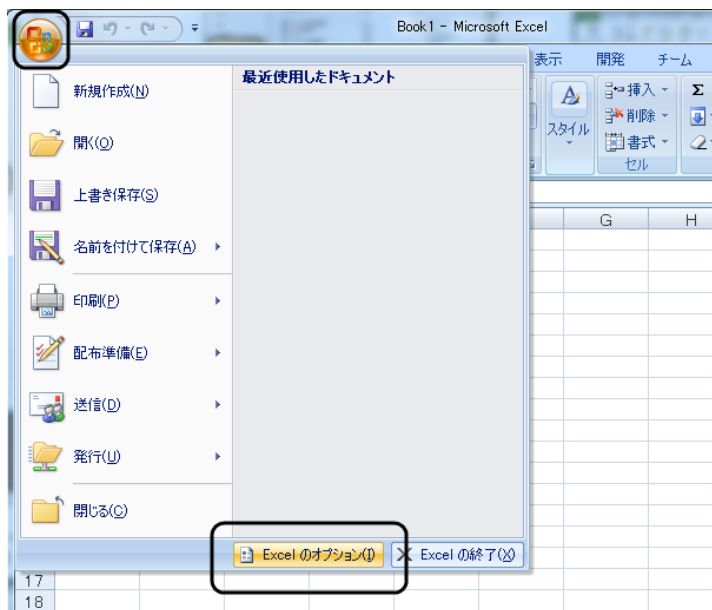
バーコード作成手順の例 - Excel2007

Excel 2007 を使ったバーコードの作成手順の例です。

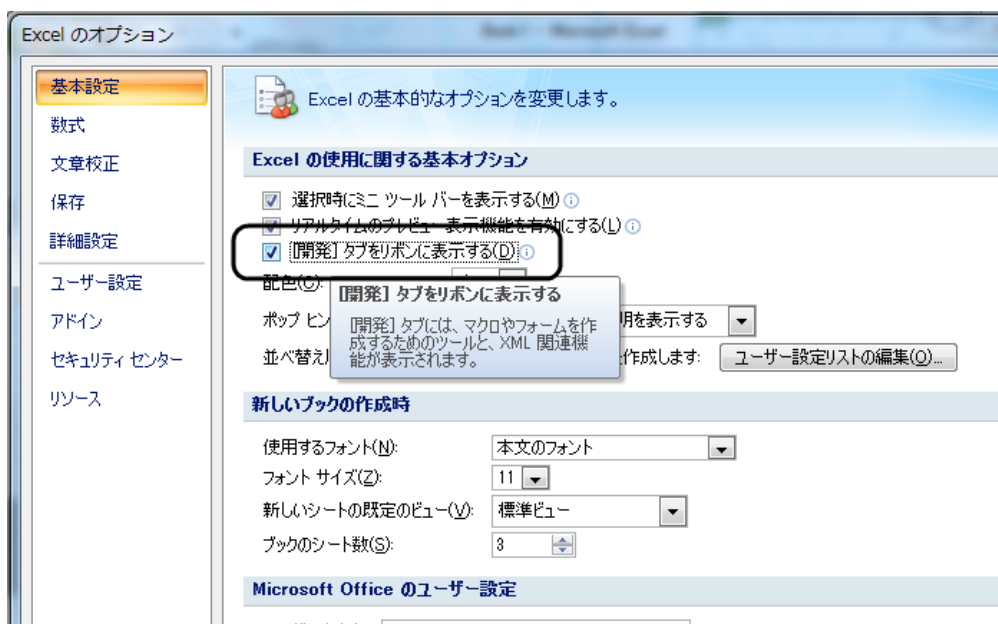
(1) 開発タブの表示

開発タブがない場合、挿入して表示します。

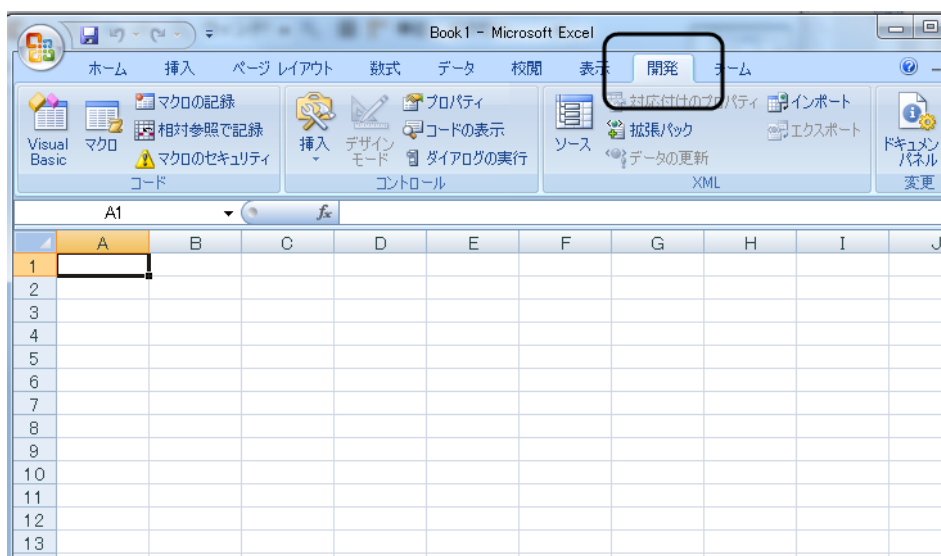
まず、「Office ボタン - Excel のオプション」をクリック。



「基本設定 - 開発タブをリボンに表示する」にチェックして、OK をクリック。

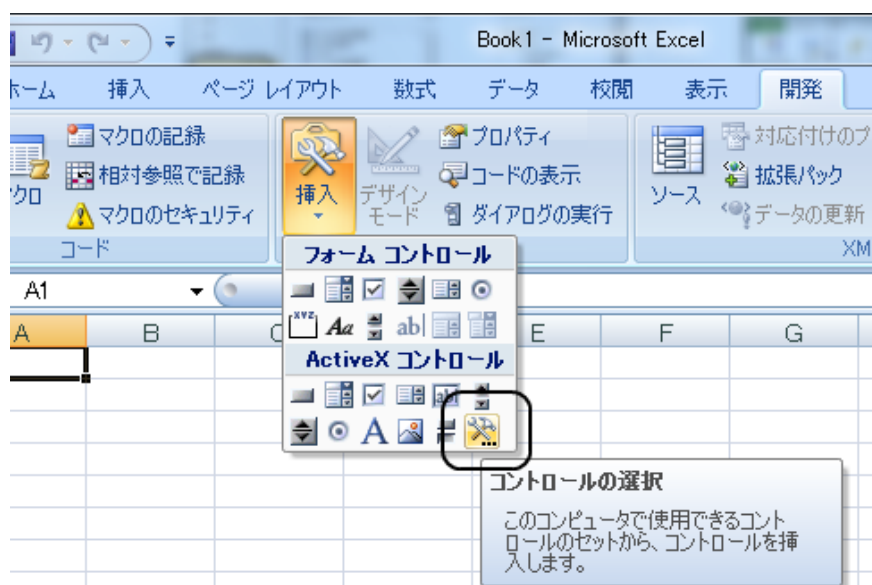


開発タブが表示されます。

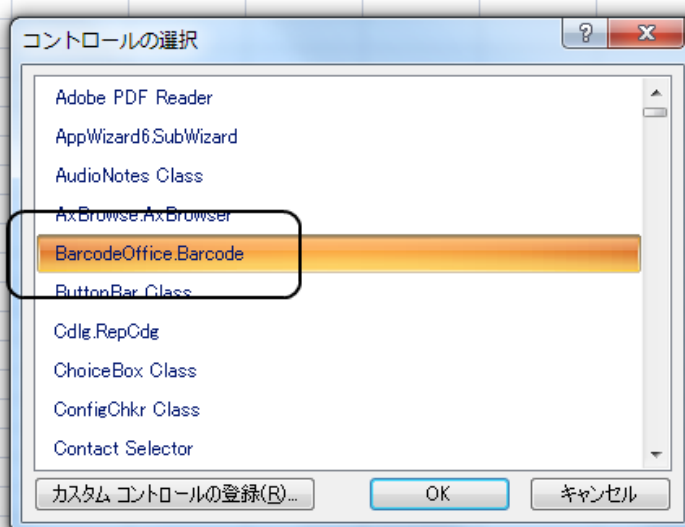


(2) バーコードコントロールの挿入

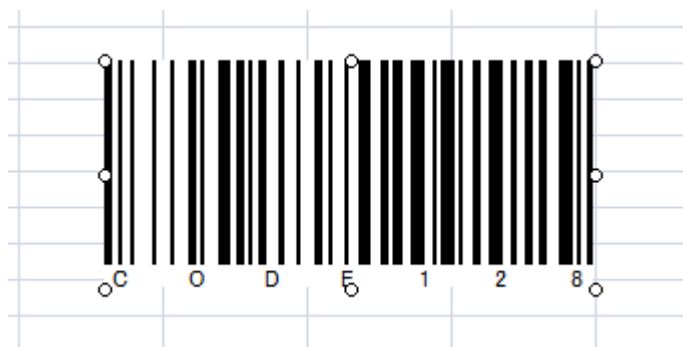
「開発タブ - 挿入 - ActiveX コントロール右下のボタン」をクリック



BarcodeOffice.Barcode を選択。



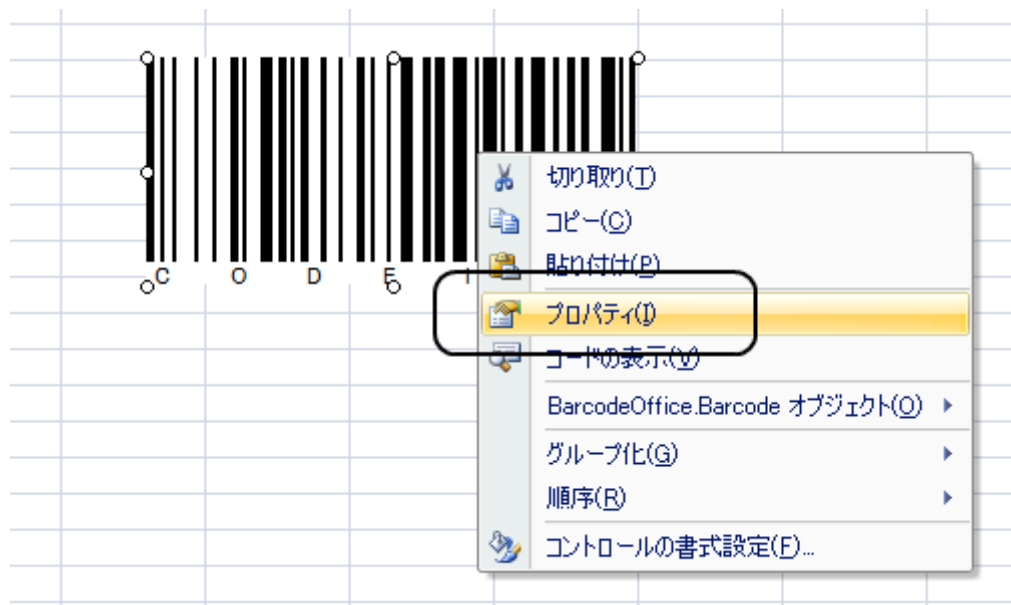
マウスのドラッグ操作でコントロールを貼り付け。



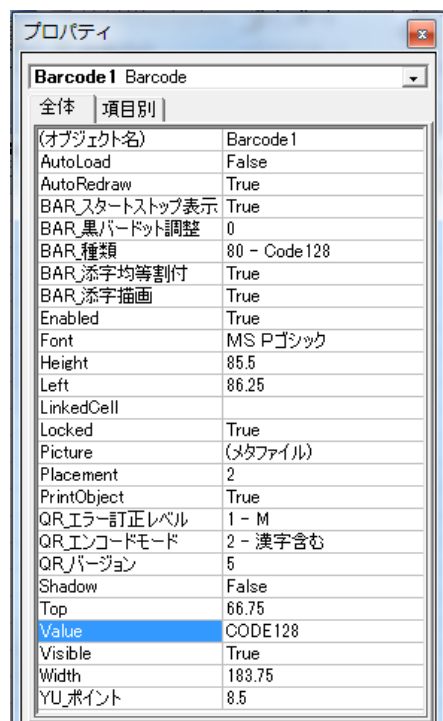
CODE128(デフォルト)のバーコードが作成されます。

(3) セルの値をバーコードに出力

右クリックプロパティ。



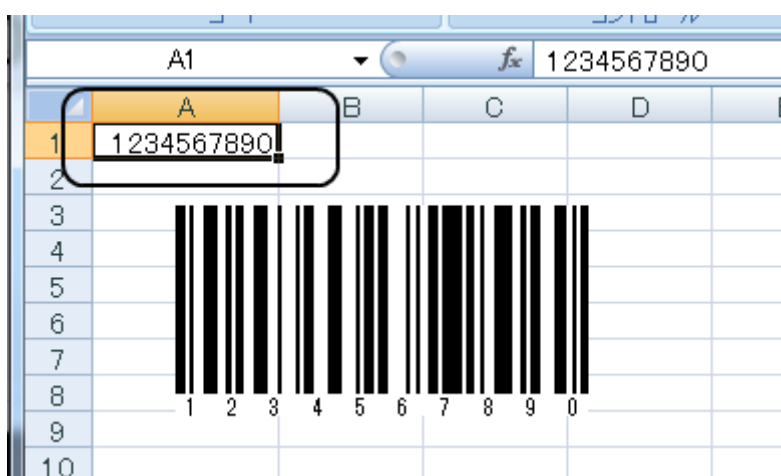
バーコードコントロールのプロパティウィンドウが表示されます。



LinkedCell プロパティに「A1」入力。

Enabled	true
Font	MS Pゴシック
Height	85.5
Left	86.25
LinkedCell	A1
Locked	True
Picture	(メタファイル)
Placement	2
PrintObject	True
QR_エラー訂正レベル	1 - M

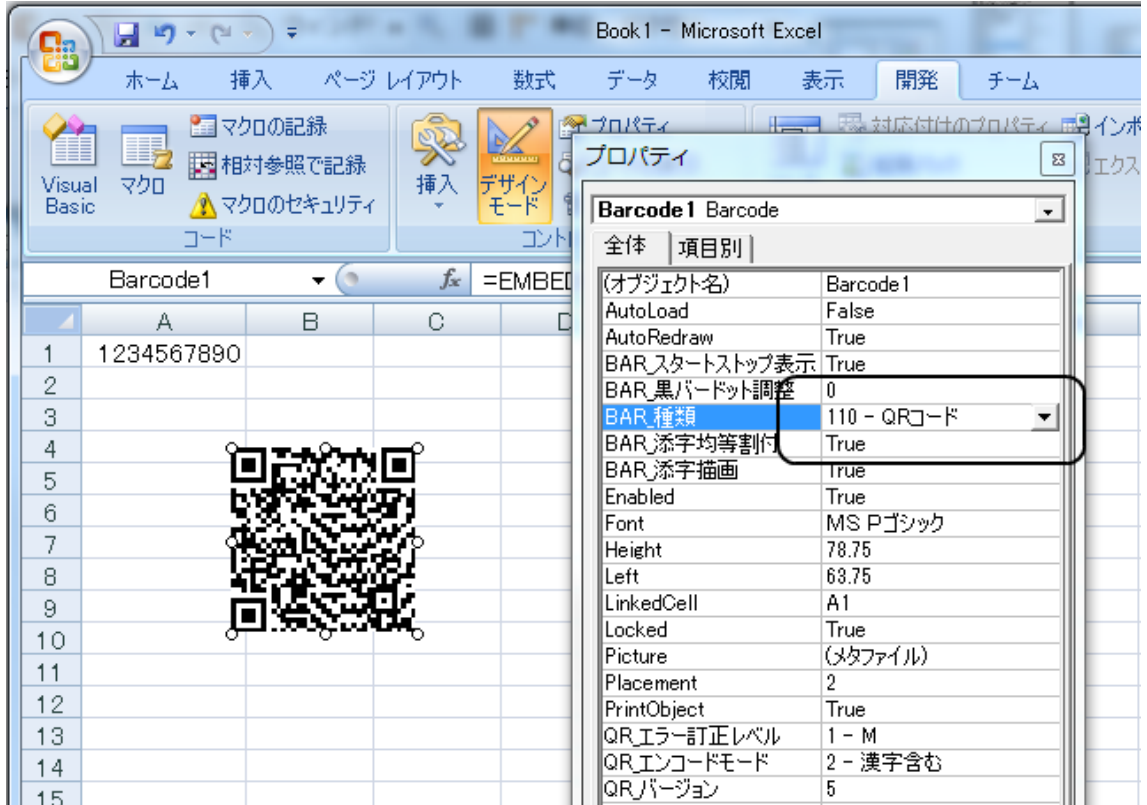
セル A1 に値を入力。



バーコードにセルの値が出力されます。

(4) バーコードの種類変更

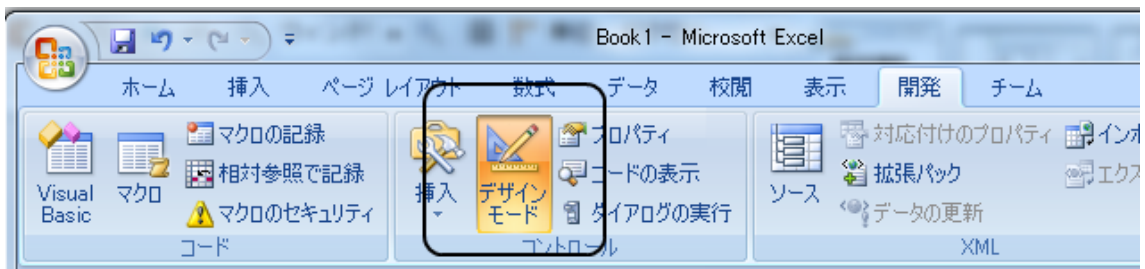
「BAR_種類」プロパティを CODE128 から QR コードに変更。



QR コードが表示されます。

(5) デザインモードを OFF

バーコードコントロールに対する設定が終わったらデザインモードを OFF にします。



通常は、デザインモードは OFF です。コントロールを選択する時、コントロールのプロパティを変更する時に、デザインモードを ON にしてください。

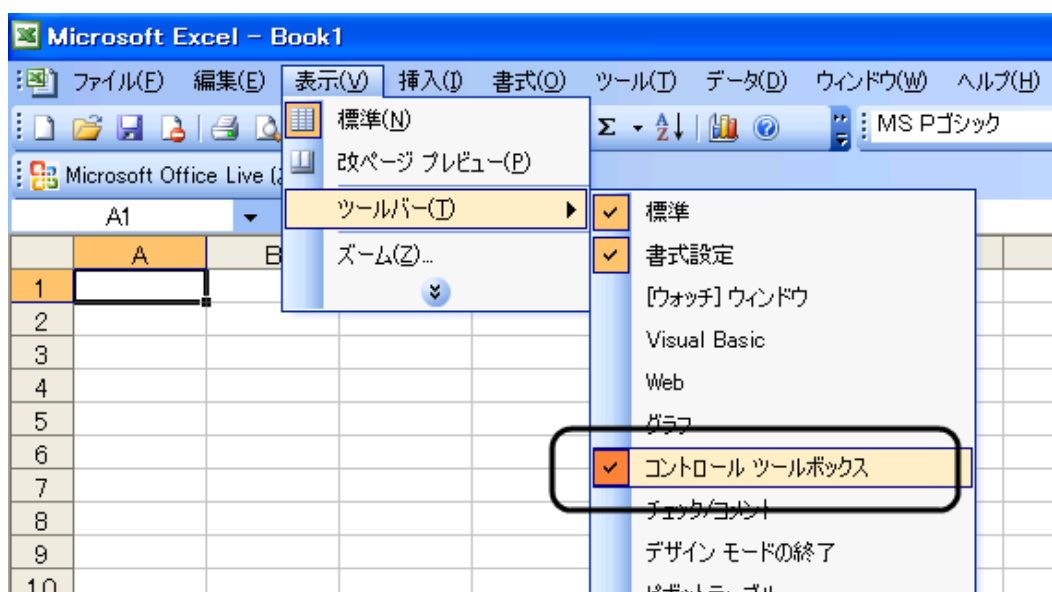
バーコード作成手順の例 - Excel2003

Excel 2003 を使ったバーコードの作成手順の例です。

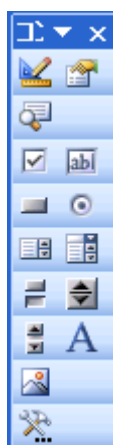
(1) コントロール ツールボックスの表示

コントロール ツールボックスが表示されていない場合、表示させます。

まず、「表示 - ツールバー - コントロール ツールボックス」をクリック。

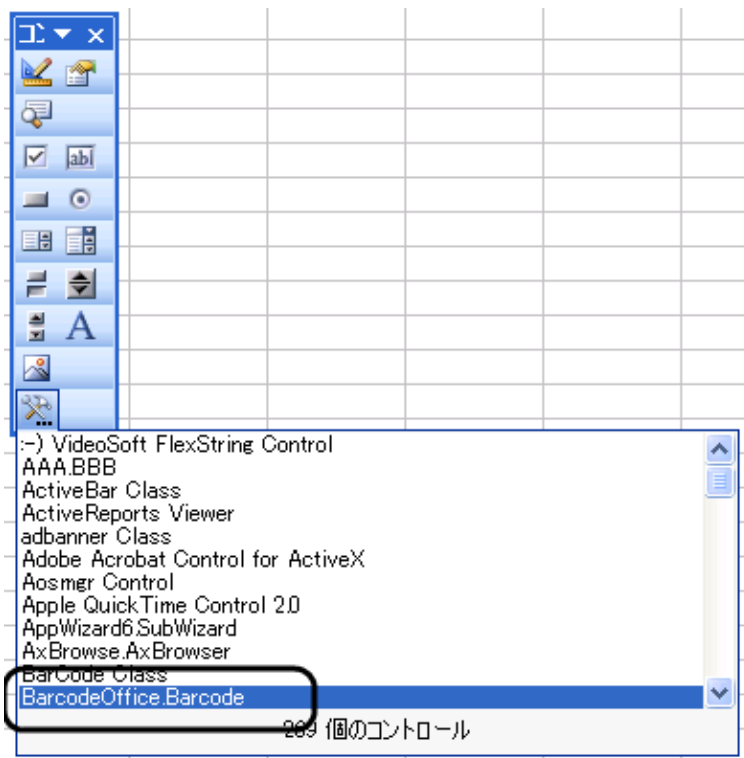


コントロール ツールボックスが表示されます。



(2) バーコードコントロールの挿入

「コントロール ツールボックスの一番下のボタン」をクリックして、コントロールの一覧から「BarcodeOffice.Barcode」を選択。



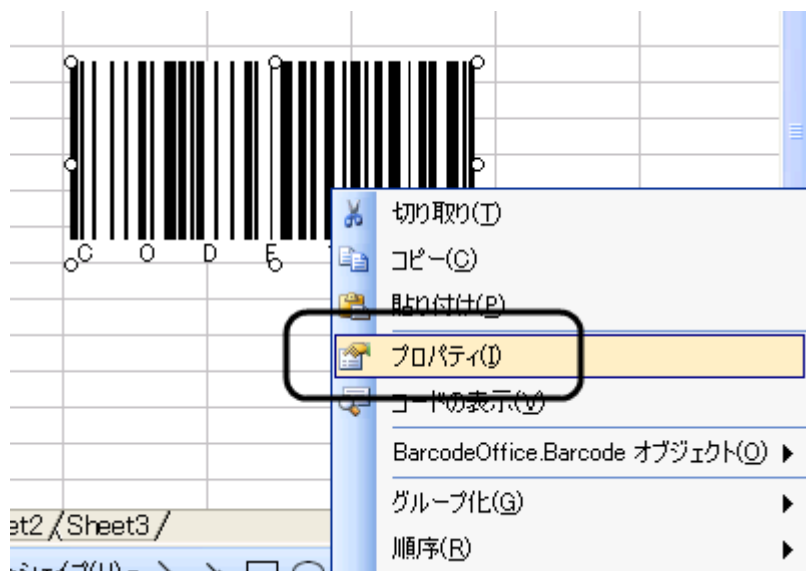
マウスのドラッグ操作でコントロールを貼り付け。



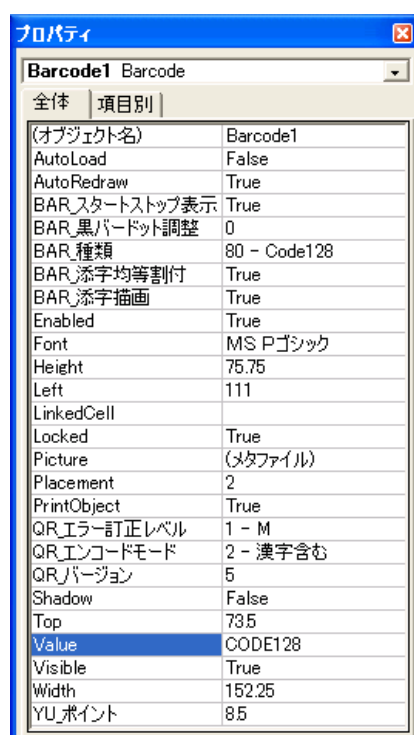
CODE128(デフォルト)のバーコードが作成されます。

(3) セルの値をバーコードに出力

右クリックプロパティ。



バーコードコントロールのプロパティウィンドウが表示されます。




LinkedCell プロパティに「A1」入力。

Font	MS Pゴシック
Height	75.75
Left	111
LinkedCell	A1
Locked	True
Picture	(メタファイル)
Placement	2

セル A1 に値を入力。

	A1			
	A	B	C	D
1	1234567890			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				

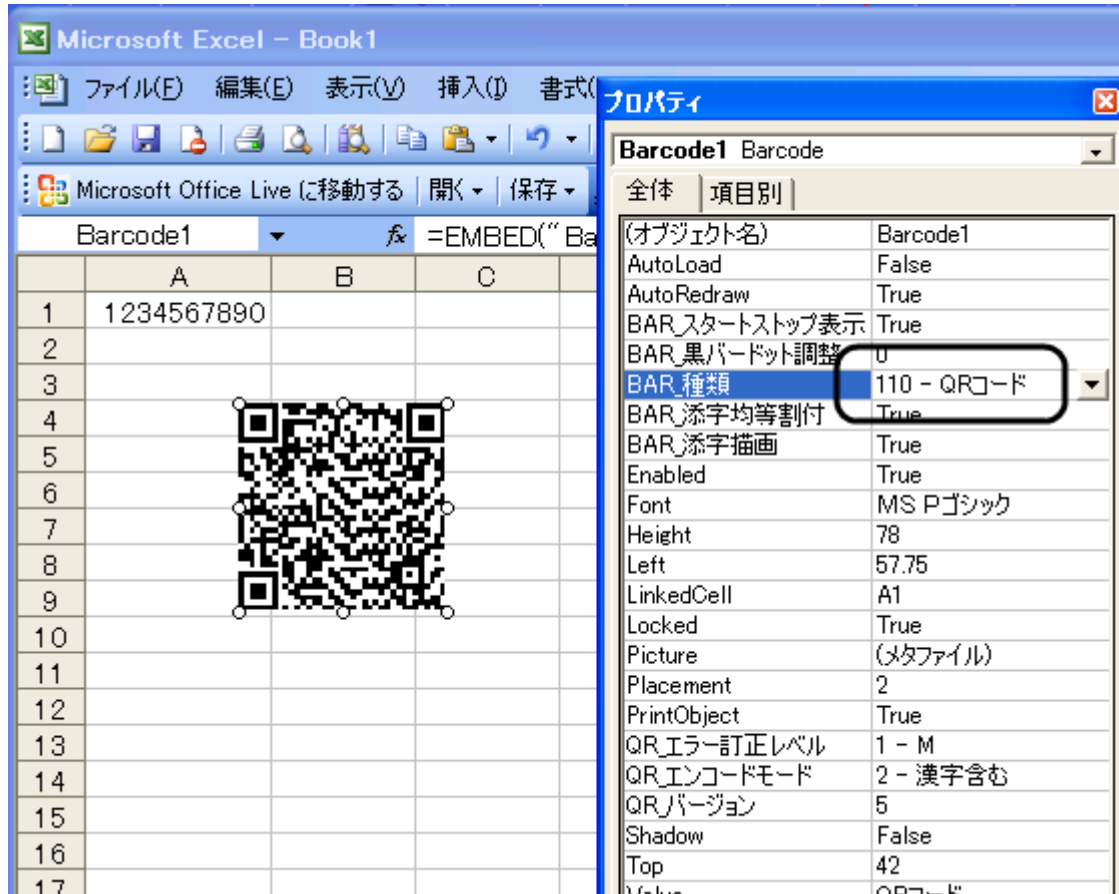


A barcode is generated from the value '1234567890' in cell A1. The barcode is positioned below the spreadsheet grid, with the numbers 1 through 0 aligned under the corresponding bars.

バーコードにセルの値が出力されます。

(4) バーコードの種類変更

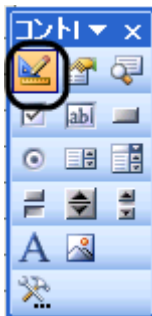
「BAR_種類」プロパティを CODE128 から QR コードに変更。



QR コードが表示されます。

(5) デザインモードを OFF

バーコードコントロールに対する設定が終わったらデザインモードを OFF にします。



通常は、デザインモードは OFF です。コントロールを選択する時、コントロールのプロパティを変更する時に、デザインモードを ON にしてください。

Excel VBA マクロのコーディング例 - 貼り付けたコントロールから

まず、バーコードコントロールをシートに貼り付けます。
次にボタンを 3 つ貼り付けて、そのクリックイベントに以下のようにコードを記述します。

```
Private Sub CommandButton1_Click()  
    Barcode1.Value = "ABCDEFGG"  
End Sub  
  
Private Sub CommandButton2_Click()  
    Barcode1.BAR_種類= QRコード  
End Sub  
  
Private Sub CommandButton3_Click()  
    Barcode1.BAR_種類= Code128  
End Sub
```

Barcode.Office コントロールの各種プロパティの説明は、本書の「バーコード (ActiveX) コントロールのプロパティ」をご覧ください。

Excel VBA マクロのコーディング例 - COM オブジェクト生成から

VBA でバーコードの生成の最少のコードは以下の様になります。

```
'バーコードオブジェクト生成
Dim Bar As Object
Set Bar = CreateObject("Barcode.COM")

'オープン(幅, 高さ)
Bar.Open(200, 100)

'バーコードの種類10~200 (ここではCODE128 = 80)
Bar.BarcodeKind = 80

'バーコード描画(クリップボード転送)
Bar.Draw("TEST CODE")

'クローズ(最後のおまじない)
Bar.Close()

'バーコード描画セル選択
Range("C8").Select()

'バーコード画像描画(クリップボードから)
ActiveSheet.Paste()
```

バーコードの種類は、以下のように定義しておく则便利です。

```
'バーコード種類(BarcodeKind)
Const BK_JAN13 As Integer = 10
Const BK_JAN8 As Integer = 30
Const BK_ITF As Integer = 40
Const BK_Matrix2of5 As Integer = 50
Const BK_NW7 As Integer = 60
Const BK_CODE39 As Integer = 70
Const BK_CODE128 As Integer = 80
Const BK_EAN128 As Integer = 90
Const BK_郵便カスタマ As Integer = 100
Const BK_QRコード As Integer = 110
:
:
```

上記最少コードに各種プロパティのセットを付与したコーディング例を次に記述します。


```
Private Sub CommandButton1_Click ()  
    ' バーコードオブジェクト生成  
    Dim Bar As Object  
    Bar = CreateObject("Barcode.COM")  
  
    ' オープン(幅, 高さ)  
    Bar.Open(200, 100)  
  
    ' バーコードの種類10~110  
    Bar.BarcodeKind = BK_CODE128  
  
    ' プロパティ(省略可)  
    ;  
    ;     ' 添え字を描画する(デフォルト=True)  
    ;     Bar.TextWrite = True  
    ;  
    ;     ' 添え字のフォント指定  
    ;     If Range("C11").Value <> "" Then  
    ;         Bar.FontName = Range("C11").Font.Name  
    ;         Bar.FontSize = Range("C11").Font.Size  
    ;     End If  
    ;  
    ;     ' 添え字均等割り付け(デフォルト=True)  
    ;     Bar.TextKintou = True  
    ;  
    ;     ' 添え字のSTART/STOP コード表示(デフォルト=False)  
    ;     Bar.DispStartStopCode = False  
    ;  
    ;     ' 郵便カスタマコード専用プロパティ---▼▼▼ここから▼▼▼  
    ;  
    ;     ' ポイント=バーコードの大きさ(8~11.5)  
    ;     Bar.YU_Point = False  
    ;  
    ;     ' 郵便カスタマコード専用プロパティ---▲▲▲ここまで▲▲▲  
    ;  
    ;  
    ;     ' QRコード専用プロパティ---▼▼▼ここから▼▼▼  
    ;  
    ;     ' エラー訂正レベル L/M/Q/H (デフォルト=M)  
    ;     Bar.QR_ErrorCorrect = "M"  
    ;  
    ;     ' エンコードモード N:数字A:英数字Z:漢字含む(デフォルト=Z)  
    ;     Bar.QR_EncodeMode = "Z"  
    ;  
    ;     ' バージョン(デフォルト=5)  
    ;     Bar.QR_Version = 5  
    ;  
    ;     ' QRコード専用プロパティ---▲▲▲ここまで▲▲▲  
  
    ' バーコード描画(クリップボード転送)  
    Bar.Draw("TEST CODE")  
  
    ' クローズ(最後のおまじない)  
    Bar.Close()  
  
    ' バーコード描画セル選択  
    Range("C8").Select()  
  
    ' バーコード画像描画(クリップボードから)  
    ActiveSheet.Paste()  
  
End Sub
```

バーコード(ActiveX)コントロールのプロパティ

Barcode.Office は、以下の 2 つインターフェイスを用意しております。

- ActiveX コントロール
- COM コンポーネント

バーコードコントロールを貼り付けて使用する場合、ActiveX コントロールを使用してください。

バーコードオブジェクトの生成から行う場合、COM コンポーネントを使用してください。(上記の 2 つの命名には、深い意味はないです。)

バーコードコントロールを貼り付けて、プロパティウィンドウ又は、VBA のソースコードで、本章で説明する各種プロパティをセットしてください。バーコードの内容が変更されます。

(1) Value

バーコードの値

(2) LinkedCell

バーコードに出力するセル位置 (例 : A1)

(3) BAR_種類

バーコードの種類

JAN13 = 10

JAN8 = 20

ITF = 30

Matrix2of5 = 40

NEC2of5 = 50

NW7 = 60

CODE39 = 70

CODE93 = 75

CODE128 = 80

EAN128 = 90 (GS1-128)

郵便カスタマ = 100

QR コード = 110

コンビニバーコード = 120

DataMatrix = 130

PDF417 = 140

デフォルト : CODE128 = 80

(4) BAR_描画方法

幅ピッタリ縮小描画 = 0

縦横比維持 = 1

・・・描画制度はよいですが、指定幅以内となり、指定幅ピッタリにはなりません。

デフォルト：幅ピッタリ縮小描画 = 0

(5) BAR_添字描画

デフォルト：True (添え字を描画する)

(6) Font

添え字のフォント

ただし、Font Name と Font Size のみ有効。

(7) BAR_添字均等割付

デフォルト：True (均等割りする)

(8) BAR_スタートストップ表示

デフォルト：False (表示しない)

(9) BAR_黒バードット調整

黒バーの太さをドット単位で調整します。プラスの値の場合、黒バーのドット数を値分太くします。マイナスの値の場合黒バーが細くなります。

プリンタによりインクのにじむなど、バーコードの黒バーが太すぎてリーダーで読みづらい等の現象がある時に、ご利用ください。

(10) CODE128_コードセット

0 - AUTO	Barcode.Office が自動でコードセットを組み合わせ最小幅のバーコードとする。
1 - CODE_A	CODE-A のみで CODE128 を出力
2 - CODE_B	CODE-B のみで CODE128 を出力
3 - CODE_C	CODE-C のみで CODE128 を出力

(11) BAR_高さいっぱい

バーコードの高さに添え字分を含むということです。

デフォルト：False(バーコードの高さに添え字分を含まない)

バーコードは、下に添え字があることがデフォルトです。

もし、添え字が無い場合、バーコードの高さはそのままです。(添え字の分空いたまま)

しかし、このプロパティを True に設定すると本来添え字の部分までバーコードを高さいっぱいに出力します。

(12) バーコードエラー表示

デフォルト : **True** (バーコードのエラーを赤字で表示)

バーコードの値を空にする時にエラーを出力したくない場合等は、**False** にしてください。

(13) YU_ポイント

郵便カスタマバーコードの時のバーコードの大きさを指定。(単位はポイントという)

8 ~ 11.5 ポイントの間で指定してください。

デフォルト : 8.5

(14) 二次元_文字コード

二次元バーコードの全角文字コード (エンコーディングの種類)

例 : "utf-8" / "shift-jis" / "932" ... 等...

デフォルト : QR コード ⇒ "shift-jis"

DataMatrix / PDF417 ⇒ "utf-8"

(15) QR_エラー訂正レベル

L / M / Q / H (0/1/2/3)のいずれかを指定。

デフォルト : M(1)

(16) QR_エンコードモード

数字のみ(0)

大文字英数字(1)

漢字含む(2)

デフォルト : 漢字含む(2)

(17) QR_バージョン

デフォルト : 5

(18) DataMatrix_コードサイズ

シンボル コード サイズ

自動 = -2

10×10 = 0

12×12 = 1

14×14 = 2

16×16 = 3

18×18 = 4

20×20 = 5

22×22 = 6

24×24 = 7

26×26 = 8

32×32 = 9

36×36 = 10

40×40 = 11

44×44 = 12

48×48 = 13

52×52 = 14

64×64 = 15

72×72 = 16

80×80 = 17

88×88 = 18

96×96 = 19

104×104 = 20

120×120 = 21

132×132 = 22

144×144 = 23

8×18 = 24

8×32 = 25

12×26 = 26

12×36 = 27

16×36 = 28

16×48 = 29

デフォルト：自動 = -2

(19) PDF417_サイズ種別

データ列数・行数決定方法

自動 = 0

データ列数指定 = 1

データ行数指定 = 2

データ列数・行数指定 = 3

デフォルト：自動 = 0

(20) PDF417_行数

出力行数指定

PDF417_サイズ種別が

出力行数指定の場合=(自動サイズでない・列数指定でない場合)有効

3~90

デフォルト：5

(21) PDF417_列数

出力データカラム数指定

PDF417_サイズ種別が

出力列数指定の場合=(自動サイズでない・行数指定でない場合)有効

1~30

デフォルト：5

(22) PDF417_エラーレベル

0~8

デフォルト：0

(23) PDF417_エラーレベル自動決定

自動でエラー訂正レベルを決定(する・しない)

デフォルト：True

(24) PDF417_縦横アクセプト比

シンボルの縦横比、シンボル アスペクト レシオ (比)

デフォルト：0.5

COM コンポーネント API

Barcode.Office は、以下の 2 つインターフェイスを用意しております。

- ActiveX コントロール
- COM コンポーネント

バーコードコントロールを貼り付けて使用する場合、ActiveX コントロールを使用してください。

バーコードオブジェクトの生成から行う場合、COM コンポーネントを使用してください。
(上記の 2 つの命名には、深い意味はないです。)

【オブジェクト生成方法】

以下のようにレイトバインド(遅延バインディング)で生成してください。

```
CreateObject("Barcode.COM")
```

【メソッド】

(1) Open (Width As Integer, Height As Integer)

オブジェクト生成後、必ず Call してください。

引数に、幅・高さをピクセルで指定してください。

(2) Draw(Value As String)

バーコードを描画する。(クリップボードに転送)

引数にバーコードの値を指定してください。

(3) Close ()

最後に 1 度 Call してください。

【プロパティ】**(1) BarcodeKind As Integer**

バーコードの種類を以下の値で指定。

- 10 : JAN13
- 20 : JAN8
- 25 : UPC-A
- 26 : UPC-E
- 30 : ITF
- 40 : Matrix 2 of 5
- 50 : NEC 2 of 5
- 60 : NW7
- 70 : CODE39
- 75 : CODE93
- 80 : CODE128
- 90 : EAN128 (GS1-128)
- 100 : 郵便カスタマバーコード
- 110 : QR コード
- 120 : コンビニバーコード
- 130 : DataMatrix
- 140 : PDF417

デフォルト : 80(CODE128)

(2) TextWrite As Boolean

添え字を描画する・しない (省略可)

デフォルト : True (添え字を描画する)

(3) FontName As String

添え字のフォント名 (省略可)

(4) FontSize As Double

添え字のフォントサイズ (省略可)

(5) TextKintou As Boolean

添え字を均等割りする・しない (省略可)

デフォルト : True (均等割りする)

- (6) **DispStartStopCode** As Boolean
スタート/ストップコードを表示する・しない (省略可)
デフォルト : False (表示しない)
- (7) **YU_Point** As Double
郵便カスタマバーコードの時のバーコードの大きさを指定。(単位はポイントという)
8 ~ 11.5 ポイントの間で指定。
デフォルト : 8.5
- (8) **StringEncoding** As Astring
二次元_文字コード
二次元バーコードの全角文字コード (エンコーディングの種類)
例 : "utf-8" / "shift-jis" / "932" ...等...
デフォルト : QR コード ⇒ "shift-jis"
DataMatrix / PDF417 ⇒ "utf-8"
- (9) **QR_ErrorCorrect** As String
QR コードのエラー訂正レベル
“L” / “M” / “Q” / “H”のいずれかを指定。
デフォルト : ”M”
- (10) **QR_EncodeMode** As String
QR コードのエンコードモード
“N” : 数字のみ
“A” : 大文字英数字
“Z” : 漢字含む
デフォルト : ”Z”
- (11) **QR_Version** As Integer
QR コードのバージョン
デフォルト : 5

(12) DataMatrix_CodeSize As Integer

シンボル コード サイズ

自動 = -2

10×10 = 0

12×12 = 1

14×14 = 2

16×16 = 3

18×18 = 4

20×20 = 5

22×22 = 6

24×24 = 7

26×26 = 8

32×32 = 9

36×36 = 10

40×40 = 11

44×44 = 12

48×48 = 13

52×52 = 14

64×64 = 15

72×72 = 16

80×80 = 17

88×88 = 18

96×96 = 19

104×104 = 20

120×120 = 21

132×132 = 22

144×144 = 23

8×18 = 24

8×32 = 25

12×26 = 26

12×36 = 27

16×36 = 28

16×48 = 29

デフォルト：自動 = -2

(13) PDF417_SizeKind As Integer

データ列数・行数決定方法

自動 = 0

データ列数指定 = 1

データ行数指定 = 2

データ列数・行数指定 = 3

デフォルト：自動 = 0

(14) PDF417_CodeRows As Integer

出力行数指定

PDF417_サイズ種別が

出力行数指定の場合=(自動サイズでない・列数指定でない場合)有効

3~90

デフォルト：5

(15) PDF417_CodeColumns As Integer

出力データカラム数指定

PDF417_サイズ種別が

出力列数指定の場合=(自動サイズでない・行数指定でない場合)有効

1~30

デフォルト：5

(16) PDF417_ErrorLevel As Integer

0~8

デフォルト：0

(17) PDF417_UseAuto ErrorLevel As Boolean

自動でエラー訂正レベルを決定(する・しない)

デフォルト：True

(18) PDF417_AspectRate As Float

シンボルの縦横比、シンボル アスペクト レシオ (比)

デフォルト：0.5

バーコード入力値について

バーコードの入力値(コード)は、バーコード自体、及び、バーコードの下に表示される添え字へ反映されます。

この入力値について特筆すべき種類のバーコードについてのみ以下にあげて説明いたします。

(1) CODE39

スタート/ストップキャラクタを自動付与致します。

(2) NW-7(CODABAR)

スタート/ストップキャラクタを指定しない場合、Cが自動付与されます。

スタート/ストップキャラクタを指定した場合は、その値を使用します。

(3) GS1-128(UCC/EAN128) …コンビニ向け標準料金代理収納用含む

アプリケーション識別子(AIの前に” {FNC1}” という文字列を指定することで GS1-128 (UCC/EAN128)のバーコード作成を可能としています。

例)

- バーコードの下の添字↓

(01)04912345678904(10)0211(3103)001528

※ () 付きがアプリケーション識別子(AI)

-上記の添字の場合のコード指定方法↓

「{FNC1} 0104912345678904{FNC1}100211{FNC1}3103001528」

少し特殊な GS1-128(UCC/EAN128)において、AI(アプリケーション識別子)を挿入する必要があります。AI(アプリケーション識別子)の挿入方法は2通りございます。

(1) 可変長項目(データブロック)の後の AI には、FNC1 を挿入

⇒これまで通り"{FNC1}"を付ける。例: "{FNC1}21"のようにコードを指定

(2) 固定長項目(データブロック)の後の AI には、固定長のため目印の FNC1 は不要

⇒新しく追加した"{AI}"を付ける。例: "{AI}21" のようにコードを指定

"{AI}"を指定して FNC1 を挿入しない場合も、カッコ0付コード文字は出力されます。例えば入力コードに"{AI}21"を指定した場合、添え字には(21)と出力されます。

例) (01)04512345670016(21)1 ⇒(01)の前には FNC1 を挿入し(21)の前には挿入しない。

コード指定方法 → ” {FNC1}0104512345670016{AI}211”

(4) コンビニ向け標準料金代理収納用バーコード

基本的には、GS1-128 と同様です。

アプリケーション識別子(AI)の前に” {FNC1}” という文字列を指定することでコンビニバーコード作成を可能としています。

例)

- バーコードの下の添字↓

(91)912345-1234567890123456789211

020331-0-123456-2

※ () 付きがアプリケーション識別子(AI)

※ 添字はガイドラインに基づき左詰で2段になります。

- 上記の添字の場合のコード指定方法↓

「{FNC1}91912345123456789012345678921102033101234562」

(5) 郵便カスタマバーコード

[郵便番号の数字部分7桁]+[郵便番号では不明部分の住所の英数字を「-」区切り]で、指定してください。

例)

〒275-0026 千葉県習志野市谷津 3-29-2-401

コード指定方法→「27500263-29-2-401」

(6) GS1-DataMatrix

アプリケーション識別子(AI)の前に” {FNC1}” という文字列を指定することでGS1-DataMatrix のバーコード作成を可能としています。

例)

- バーコード↓のコード

(01)04912345678904(30)100(17)120401

※ () 付きがアプリケーション識別子(AI)

-上記の場合のコード指定方法↓

「{FNC1}010491234567890430100{FNC1}17120401」

GS1-DataMatrix は、添え字がないため、FNC1 を挿入する個所に”{FNC1}”を入力していただくだけで結構です。GS1-128 で使用している”{AI}”は使用しないでください。

試用版・製品版について

お試し版の制限は、バーコードに控えめに「SAMPLE」という文字が入ります。



ライセンス登録することにより、試用制限は解除されます。

ライセンス登録方法は、
インストール先(デフォルト:C:\Program File (x86)\Pao@Office\Barcode.Office)
の License.bat を起動するか、スタートメニューより「ご購入・ライセンス登録」
をクリックしてください。

バージョンアップの際は、WEB サイトにてお知らせいたします。

http://www.pao.ac/barcode_office/

最新版をダウンロード後インストールしていただければ、いつでも無償でバージョンアップを行えます。

使用許諾

Barcode.Office の使用について、Barcode.Office の使用者(以下「利用者様」と称します)と有限会社パオ・アット・オフィス(以下「弊社」と称します)は、以下の各項目についての内容に同意するものとします。

1.Barcode.Office の使用に関する使用許諾書

この使用許諾書は、利用者様がお使いのパソコンにおいて、Barcode.Office を使用する場合に同意しなければならない契約書です。

2.使用許諾書の同意

利用者様が Barcode.Office を使用する時点で、本使用許諾書に同意されたものとします。同意されない場合は、Barcode.Office を使用する事はできません。

3.試用制限

Barcode.Office は、いつでもどこでも誰でもその機能を試していただくことが可能です。ただし、バーコードに「SAMPLE」という文字が挿入されるという制限があります。

4.ライセンス(使用权)の購入

利用者様が Barcode.Office を正式に使用し続ける場合には、1台のコンピュータで Barcode.Office を使用するにあたり、1ライセンスを購入する必要があります。

5.著作権

Barcode.Office 及の著作権は、いかなる場合においても弊社に帰属いたします。

6.免責

Barcode.Office の使用によって、直接的、あるいは、間接的に生じた、いかなる損害に対しても、弊社は補償賠償の責任を負わないものとします。

7.禁止事項

Barcode.Office 及びその複製物を第三者に譲渡・貸与する事は出来ません。

8.保証の範囲

弊社は Barcode.Office の仕様を予告無しに変更することがあります。その場合の利用者様に対する情報提供は、弊社 WebSite にて行う事とします。

9.適用期間

本使用許諾条件は利用者様が Barcode.Office を使用した日より有効です。利用者様が本使用許諾条件のいずれかの条項に違反した場合、又は、本許諾条件に同意出来ない場合は、利用者様は Barcode.Office を一切使用出来ないものとします。

代金支払い方法(ユーザ登録の方法)

Barcode.Office を正式にご利用頂く場合は、ライセンスを購入して頂く必要があります。ライセンス形態及び代金支払方法は以下のとおりです。

- 必要なライセンス数の数え方
 - Barcode.Office をインストールするパソコンの台数。

- 1 ライセンス当たりの価格
 - 5,000 円 (消費税込 5,500 円)
 - ◇ バグフィックス等のバージョンアップは原則として無償とさせていただきます。
 - ◇ 大幅な機能追加等によるバージョンアップの場合には別ライセンスとさせていただきます場合がございます。
 - ◇ 本価格は Barcode.Office の使用权に対するものです。カスタマイズや保守等の費用は一切含まれておりません。

- お支払方法
 - (5,500 円×ライセンス数)を下記口座へお振り込み下さい。

銀行名	支店名 (コード)	口座番号	名義
三菱UFJ銀行	新宿支店 (341)	普通 3831891	ユ) パオアットオフィス
PayPay 銀行	すずめ支店 (002)	普通 6461359	ユ) パオアットオフィス

郵便口座番号	名義
00150-0-576845	有限会社 パオ・アット・オフィス

◇ 手数料は利用者様負担でお願い致します。

- お支払いの通知と製品の送付
 - 振り込みが完了した時点で、必ず弊社 WebSite の「入金連絡フォーム」から入金のご連絡をお願いいたします。
http://www.pao.ac/barcode_office/buy.html#form
 - 弊社では上記連絡を受けて入金確認を行い、ライセンスキーを利用者様へ電子メールにて送付させていただきます。
 - ◇ 利用者様へは電子メール以外でのライセンスキー送付は原則として行いません。
 - ◇ ライセンスキーは原則として再送付致しません。受信したライセンスキーは必ずバックアップを取る等して、内容を大切に保管して頂くようお願いいたします。

- 見積書/納品書/請求書/領収証の発行、納品後のお支払いについて
見積書/納品書/請求書/領収証の発行は可能でございます。本製品納品後のお支払いも可能でございます。

http://www.pao.ac/barcode_office/buy.html

上記サイトでの手続きにより、弊社からの見積書/納品書/請求書/領収証の発行、及び、納品後のお客様からお支払いを行えるようになっております。

変更履歴

版	作成日	変更点
1	2010.11.30	新規作成
2	2012.11.17	製品価格改定
3	2013.02.01	コンビニバーコードの記述追加 コード入力値の説明追加
4	2014.03.12	GS1-128 医療用向けバーコード追加に伴うマニュアル記述追加
5	2014.04.01	製品価格改定
6	2014.10.21	UPC-A / UPC-E 対応バーコード追加に伴うマニュアル記述追加
7	2016.1.5	DataMatrix / PDF417 / CODE93 対応バーコード追加に伴うマニュアル記述追加
8	2016.4.12	GS1 データバー(RSS) 対応バーコード追加に伴うマニュアル記述追加 CODE128 のコードセット A,B,C 固定機能追加による説明追加
9	2016.10.31	バーコードエラーを非表示にできるプロパティ追加
10	2017.11.07	ActiveX コントロールのプロパティ説明に置いて、 プロパティが複数抜けていたため、その説明を追加
11	2022.05.14	新版 Barcode.Office リリースに伴い、 64bit 版で動作するようになったこと、 Excel で表示倍率を変更したときの不具合が発生しなくなったこと。 等、説明追加。